

★本記事の読み上げ動画を作成しました!

忙しく記事を読む時間がない方でも、耳を傾けていただくだけで内容を把握することができるよう、本記事を読み上げた動画を作成しました。移動時間やスキマ時間などにぜひご活用ください!
動画はこちら▶<https://youtu.be/-je9sMSp3LE>



連載

★学校運動部活動と連携するクラブ★

一般社団法人 たかすほ 高SPO

熊本県阿蘇郡高森町

学校運動部活動をめぐっては、少子化による生徒の減少、それに伴う教員数の減少、専門的指導力を持つ教員の不足等により、生徒のニーズに応じた部活動が成り立たなくなる現状があります。

文部科学省では、令和5年から令和7年までを「改革推進期間」と位置づけ、休日の部活動の改革に取り組んでいます。合同部活動や部活動指導員の配置により地域との連携を図ることや、学校外の多様な地域団体が主体となる地域クラブ活動へ移行することにより、学校運動部活動に継続して親しむための環境づくりは急務です。地域の実情等に応じて可能な限り早期の実現をめざすように、各自治体は求められています。

そこで今回は、自治体と共に学校運動部活動との連携に取り組むクラブの活動を紹介します。

1

クラブ概要

23種目のクラブ活動を運営

一般社団法人高SPO(以下、「高SPO」という)は、スポーツや文化を通じて地域住民がコミュニケーションを図る活動の場です。大人たちにはスポーツ活動や文化活動を通じて日々の生活をより楽しんでもらい、同時に健康づくりもサポートしています。また、子どもたちには健全な人材育成を目的とした指導を行っています。「いきいき・健康・たかもり」をスローガンに掲げ、健康で明るく、人に優しい環境づくりの実現が理念となっています。

子どもたちの活動では、年長児より参加できる剣道、柔道、空手、キッズバスケットボールクラブをはじめとする18種目のクラブを運営しています。一般会員(高校生以上)向けクラブも5種目実施しており、現在は合計で23種目のクラブが活動しています。

<実施クラブ>

ロアッソ熊本サッカースクールU-12・キッズサッカー教室U-9・ミニバスケットボールスクール・キッズバスケットボールスクール・高森中バドミントンクラブ・バドミントン高森東教室・バドミントン高森ジュニア・バドミントン教室・バドミントンクラブ・柔道教室・剣道教室・空手教室・総合スポーツクラブ・硬式テニス初心者ジュニアスクール・ダンス教室・陸上教室・軟式野球チーム・ソフトテニス教室・ミニバレー教室・硬式テニス教室・ノルディックウォーキング教室・太極拳教室・吹奏楽団

町行政との連携でより良い環境整備を

令和5年度10月現在における高SPOの会員数は、キッズ・ジュニア会員が144名、中学生69名、一般会員168名、総数381名です。

会費等については、キッズ・ジュニア会員の年会費(中学生以下・未就学児、年間保険料込)は2000円、月会費は400円、一般会員(高校生以上)の年会費は3000円、月会費は600円です。年間登録して活動を行う時点で毎月の月会費を支払うこととなりますが、高SPOの全クラブに参加できることになり、低額の月会費でさまざまなスポーツや文化系教室、健康づくり教室などに参加できるのは会員の最大のメリットです。

このような比較的安価な会費で運営できるのは、町行政からのご理解とご支援をいただいているからです。活動助成金のほか、高SPOの活動では町立施設およびナイター使用費の減免措置やふるさと納税を活用した備品整備支援を受け、より良い環境を整えることができています。

町民体育館内に事務局を設置

高森町民体育館など町立施設の管理事業を受けることにより、施設利用者との接点が密になり、清掃や芝の管理、施設周辺の雑草整備など広い視野を持って、施設利用者の要望を取り入れた管理環境を実現しています。現在、高森町民体育館内に高SPO事務局を設置し、アシスタントマネージャーを含む職員2名で管理しています。また、地域のパイプ役でもある集落支援員「スポーツ支援員」1名も事務所に席を置いています。

構成は、理事長、理事(正会員)8名(うちクラブマネージャー資格者1名)、監事1名(正会員外)、社員(正会員)15名、事務局3名、オブザーバー(スポーツ支援員)1名となっています。

理事は高森町スポーツ協会の職務を兼務し、これにより町内のスポーツ環境の管理を共にし、スポーツ振興を推進しています。

2

地域の状況や環境に応じた 学校部活動と社会体育活動の両立

小・中運動部活動の連携指導をめざす

現在、高SPOが積極的に取り組んでいるのが学校運動部活動との連携です。

熊本県教育委員会では平成27年度に「児童生徒のための運動部活動及びスポーツ活動の方針」を策定し、「基本方針1 小学校の運動部活動は社会体育へ移行する」「基本方針2 中学校・高等学校の運動部活動は社会体育と連携する」と示しました。

高SPOでは小学生から中学生までの連携指導めざし、この基本方針以前から小学校部活動顧問と指導共有を行ってきました。平成27年度の基本方針策定で、学校部活動から社会体育への移行および連携は、よりスムーズに運ぶようになりました。

小学生対象の教室で中学生も受け入れて連携指導を行うようになり、小学校部活動との連携が始まりました。当初は、中学生にも合わせた練習レベルに、小学生が戸惑う場面がありました。しかし、小学生は次第に慣れるとともに、小学生だった児童が中学校に進級すると、ごく自然に総合型地域スポーツクラブの環境で、小学生と中学生と一緒に活動できるようになりました。現状の中学校部活動では足りない部分をカバーしつつ、小学生のときから慣れ親しんだ指導者と活動環境のなかで、子どものみならず保護者ともしっかりと信頼関係が築けています。

連携事業で部活動時間の不足をカバー

中学校の部活動時間は平日放課後の週4回、前期は午後6時まで、後期は午後5時30分までと決められています。そこで、高SPOの連携事業では社会体育活動として、不足しがちな部活動回数と時間外活動をカバーしています。

中学校の外部指導者は高SPOの社会体育指導者として登録し、週末は午前中から練習を始め、練習試合や公式大会にも外部指導者として立ち会います。部活動加入者の全員が高SPOに加入する必要はなく、あくまでも個人が必要に応じて入会し活動しています。スポーツの楽しさを求めることと、技術の向上を目指すことを、個々に選ぶことができるようになっています。

また、部活動連携では、全クラブが学校の施設を使用しています。部活動と同じように活動しているので、機材道具の移動もなく、部活動と社会体育活動の両立がスムーズにできています。

競技や環境に合った連携で成果をあげる

また指導面では、社会体育活動を担当する高SPOの全指導者を対象に、定期的な指導者会議を開き、現場状況の共有と危機管理の共有、行き過ぎた指導への注意を促しています。

このような中学校との連携事業は現在、柔道、剣道、バドミントン、バスケットボール、ソフトテニス、吹奏楽で実施しています。

剣道部は長年の実績により、高森町が地域外からの入学生を受け入れています。全寮制による集団生活と顧問のサポート、OBの指導により、今年度5度目の全国中学校剣道大会男子団体優勝の快挙を達成しました。

ソフトテニスは部活動と社会体育を完全に切り離れた活動で、町外からの生徒も多く加入しています。指導者が独自でテニスコートを確保し、数名の指導者によりクラス分けをして練習を実施しています。大会エントリーについても、指導者と教員が情報共有し、部活動で出場する大会のみならず、クラブチーム高SPOとして所属学校を超えたクラブ編成が実現しています。

吹奏楽部は「高SPO吹奏楽団」を立ち上げ、小学生から高校生が一緒に活動できる環境が出来ました。今では、OB・OGも演奏や指導に参加し、小学生から社会人が一つのチームになって活動する特殊な環境です。高SPO吹奏楽団は数々のコンクールに出場し、最近では九州吹奏楽コンクールにおいて金賞を受賞(職場・一般の部)するなど好成績を収めています。指導者が一人なので苦労はあるでしょうが、「子どもたちの一日一日の成長を見るのが楽しい。コンクールでミスなく上手に演奏することより、楽しく表現し、思い切りのいい演奏をすることが大事」と強調します。



10年ぶり5度目の優勝



昨年まで2名での活動
社会体育環境での増員



九州大会一般の部 金賞



バドミントン女子
城北大会 準優勝

プロスポーツ団体との指導連携

高SPOでは23種目のクラブ活動とは別に、プロスポーツ団体との連携によるスポーツ教室が開かれています。高森町行政が主体となり、阿蘇市・阿蘇郡全体を視野に入れて設立されたプロサッカーのロアッソ熊本(J2)とプロバスケットボールの熊本ヴォルターズ(B2)が連携団体です。サッカー、バスケットボールともにチームの専属コーチや時にはプロ選手から直接指導を受けられる、子どもたちには貴重な体験になる教室です。

このようなプロスポーツ団体との連携は、指導者育成にもつながる取り組みです。今後は、プロスポーツクラブや文化クラブ指導者による指導者セミナーなどを開き、スポーツ系ばかりではなく文化芸術系との指導理念の共有なども図っていきます。子どもたちが安心して活動できるための取り組みは、今後の高SPOにとって大切な財産になるはずです。

高SPOとして行政・教育の会議等に参加することもあります。会議の参加者の皆さんと意見交換することにより、行政や地域の方々と良好な連携を構築していきたいと考えています。



バスケットボール部
プロクラブにも数名所属

3

連携事業をよりスムーズにするための 問題点と今後の展望

学校運動部活動との連携事業が進むなかで、いくつかの問題点もあげられてきました。以下に、列記していきます。

- ① 中学校部活動をサポート的に受け入れてきたクラブにとって、勝利至上思考の生徒や保護者の期待に応えられる高いレベルでの指導ができるのか？ また指導の後継者は今後どうなるのか？ 子どもたちがスポーツを習得する大事な時期を任されているのだろうか？ など指導者から不安の声が聞かれました。また、指導者の高齢化も今後の問題となってくると予想されます。
- ② 少子化によりクラブ加入者数は減る傾向にあり、クラブの存続も問題視されます。子どもたちが参加したいクラブ活動が減り、高森町以外のクラブを選択するような悪循環になることも考えられます。クラブの活性化を図るとともに、「いきいき・健康・たかもり」の地域づくりをめざし活動するなかで、行政と連携し会員の獲得に努めていく必要があります。
- ③ 学校の施設を使用しているクラブにとっては、学校教職員との連携が特に大切です。教育現場との情報共有をいかにスムーズに進めるか、特に学校行事による施設使用制限はクラブの活動制限につながるもので、今後も大きな課題となるでしょう。
- ④ 指導者不足のなかでの学校運動部活動との連携では、学校教職員とクラブ指導者の役割分担をしっかりとっておくことが特に重要です。競技大会等の把握、エントリー、会計、また個人情報管理や引き継ぎなど、場合によっては煩雑な作業も発生します。従来、部活動の顧問や教職員が管理してきた業務を、外部指導者が扱うことになるので、クラブ側の責任は重大です。

高SPOの今後の展望としてあがってきているテーマを以下に列記しておきます。

- 賛助会員(スポンサー)企業等に声をかけて共に歩みたいと考えています。
- 定期的なクラブイベントを行い、他クラブ間の交流を深めていきます。
- 指導者間の共通認識をもって危機管理の意識を高め、事故のないクラブ活動を実践します。
- 事務局は再度、事故・ハラスメント・SNSコミュニケーション等へのマニュアル作成を行い、指導者共通認識とし、事後の早急対応と報告を徹底することに努めます。
- 専門指導者の派遣への予算獲得に努め、より良い環境整備に尽力します。
- 生徒に合った指導を前提に、生徒の声の届く環境や役職配置、または保護者の負担にならない活動状況を提案していきます。
- 行政や施設、民間企業とタイアップして、町外クラブ間の交流を行います。夏季の避暑地としてのPRを兼ね、宿泊代や施設使用料へのメリットを打ち出すことを提案します。

クラブプロフィール

設立年月日 平成24年3月27日(令和3年10月1日法人登記)

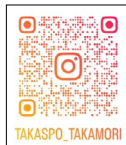
所在地 熊本県阿蘇郡高森町

運営 会員数:381名(令和5年10月現在)、予算規模1300万円(令和4年度)

特徴 **【理念】**地域住民の皆様と共にスポーツ、文化を通じた仲間づくりのお手伝いをしたり、スポーツ等を取り入れる事で日々の生活を楽しむための知恵を出し合うこと、また、子どもたちの健全育成を図ることを目的としています。それにより健康で明るく人に優しい「いきいき・健康・たかもり」の地域づくりをめざし、またそれが継続できる環境の実現を理念としています。

連絡先 〒869-1601 住所:熊本県阿蘇郡高森町大字上色見2813
TEL:0967-62-2991 FAX:0967-62-0987
E-mail:takaspotakamori@gmail.com

インスタグラム



JSPO(日本スポーツ協会)webサイト内に 運動部活動改革 特集ページを公開中!

運動部活動改革の経緯やJSPOの基本的考え方、参考情報をはじめ
スポーツ庁や競技団体、自治体等の取り組み事例を掲載

URL:<https://www.japan-sports.or.jp/tabid1377.html>

